

令和 6 年度 第 4 回野洲市図書館協議会 会議録

◎開催日時 令和 7 年(2025 年)3 月 14 日(金)午後1時 30 分～午後3時 30 分

◎開催場所 野洲図書館本館 会議室

◎出席者 図書館協議会委員 7 名、事務局 3 名(図書館長、司書 2 名) ※委員 3 名欠席
(傍聴者なし)

1. 開会

館長: 本日はご多用のなかご出席いただき感謝する。10 名の委員のうち校長先生 2 名は公務で欠席、お一人は遅刻と伺っている。もうお一人は欠席の連絡などはない。現状で過半数の出席があるので本協議会は成立することを報告する。また、この会議の議事録は情報公開の対象となっており、図書館のホームページに掲載されるので、ご了承いただきたい。本日は傍聴希望者がいないので、このまま進める。では、資料の確認をお願いしたい。
これより先の議事進行は会長にお任せする。

2. 議事

(1)「令和6年度アンケート結果(速報)」について

会長:事務局から説明をお願いする。

館長:字が細かくて見づらいところもあるがご容赦いただきたい。アンケートは 1/15～2/9、カウンターでの用紙の配布とインターネットでの回答をまとめたもの。アンケートの回答期間が空調工事期間に重なっており、来館を控えていた方もいたことから、回答総数は昨年の 738 件に比べ 100 件減って 638 件の回答となっている。用紙での回答は、今年は 492 件、前年に比べマイナス 139 件。ネットからの回答数は、今年は 146 件で、昨年よりも 39 件増加している。館内が寒かったこと、集計作業の手間が少ないことから、館内でもインターネットでの回答をおすすめしていたためかと思う。アンケートの結果については割合など前年と変わらない印象。アンケートの結果では前年と比較しにくいところはあるが、図書館の利用時間や資料、職員対応などに対する問に対して、回答数は前年までと変わらない割合の印象である。今回は速報版ということで、あえて自由記述の欄は回答そのままの生々しい声を載せている。その中で、特に目立つのは資料について「こういう本が欲しい、少ないのではないか」「新しい本が少ない」などの声。このあたりは資料費が減っていることが大きいと考えられる。アンケートでの「こういう本がほしい」という潜在的なニーズは、今後丁寧に拾いながら蔵書構築していきたい。自由記述の欄には、開館時間を伸ばしてほしいという声も多いが、なぜ開館時間を短縮したのかという経緯(夜間の利用が少なく費用対効果が低かったこと、その分人員の振替をして学校への支援等に注力しているなど)を含めながら、この点についても丁寧な説明が必要かと思う。後日、説明や図書館からの回答を付与したものを正式版としてロビーなどに掲示する予定。

会長:この点に関して質問や意見などあれば。

会長:ネットでは「遠方からの回答も寄せられました」と書いてあるが、遠方とはどこか。

館長:下に説明をつけているが、札幌市からの回答があった。こういった経緯かはわからないが、だ

れでも回答できるものなので、何らかの理由で回答いただけたものと思う。

委員：小篠原から遠い、とあるが、どのあたりか。

館長：小篠原は広いエリア。現在教育委員会がある建物（人権センター）から市役所のあたり一帯。特に駅近くの方などは、田んぼを通ってくる距離感を遠いと感じる方は多いと思う。「ちょっとその辺」という距離感ではない。町の中心でもなく、建設当時の経緯を知らない方からすると立地は疑問に感じる点かと思う。

会長：アンケートの回答年齢を見ると、60～70 歳でおよそ半数。利用状況を反映している。いかに若い人をとりこむかは課題。

館長：最近喫茶コーナーで自習・友達と過ごしている学生はよく見るようになったが、閲覧室までは来ない。図書館という場を、（本を借りたりするよりは）スペースとして過ごしたい若年層と、本を読みたい高齢者層との間でギャップがある。若い世代を取り込む工夫は図書館として必要。後述するが、読書推進計画も踏まえて考えていく必要があると思う。

委員：p30 の「予約キャンセルができるようになってほしい」というのは、今はできないのか。

館長：予約本が確保される前ならキャンセルできるはず。一度確保されてしまうと、データ上キャンセルした場合の確保した本の取り扱いが難しいので、確保された予約についてはネットからはキャンセルできなくなる。

委員：自分も不便だと感じたことがある。なかなか取りに行けないこともある。

委員：データ処理だけでは終わらず、確保状態から外した本を、その都度職員が物理的に動かす必要があるとなると、やはり難しいのでは。

会長：p29、窓際のスペースでカフェをしてほしいという意見がある。長浜の図書館でお昼にキッチンカーがきているが、やはり難しいか。

館長：キッチンカーは引き続き検討はしたいところだが、すぐには難しい。従来カフェをしていたひだまりさんがテイクアウト専門にリニューアルして近日オープン予定。まずはひだまりカフェで活性化できればと考えている。

委員：公共施設としての兼ね合いで、ここで以前上映会をしていたが、パンフレットは販売できないと聞いた。やはり難しいのか。

館長：現時点では施設利用の規定により、原則お断りしている。

委員：上映会には監督も来られていた。難しいのは理解したが、柔軟に対応できればよいと思う。先ほど話に出たキッチンカーでは、売り上げの一部を図書館に収めているのか？

会長：おそらくそう。

委員：長浜の場合は図書館が運営しているかどうかもわからない。

館長：今後の検討課題としたい。

会長：以前レファレンスについて PR などしていきたいと聞いたが、どうか。

館長：現時点では特に進められていないのが現状。空調工事などの業務で負担が増えてしまった。

会長：AIなどで調べることが主流になっている中で、レファレンスサービスの PR はもう少ししてほしい。

委員：紙芝居について、目録があってもタイトルだけでは把握できない。結局しらみつぶしに見ている。何か他館でもいい方法がないのか。

館長：使いやすくしようと思うと、数を減らす必要がある。それよりは、多少不便でも量を確保して選択肢を増やすほうがよい。配架の方法を工夫しても良いが、結局整理できなくなる。県立図書館はどうか。

委員：おおむね野洲と同様。棚が二段になっているので取り出し辛く、余計に探しにくい状態。だが

数年前に改善のために季節の行事、あかちゃん絵本、交通安全などは分けた。目的をもってこられる方にはわかりやすくなったかと思う。

委員：目的別に分けているのは野洲も同様か。

館長：同様。野洲では高齢者向けの枠もある。高齢者のサロンなどに行かれる方の利用がある。

委員：ギャラリーの催しが事前にわかると思う。

館長：ギャラリーの管理は市民協働室。情報としては取りにくい。

委員：そこは連携して出せるとよいと思う。管理は違っても、建物全体で図書館として認識している利用者が多いと思う。図書館のHPでPRできれば一番良いかと思う。

館長：HPの建付け自体を図書館では変更できないが、連携して何かできないか検討する。

委員：蔵書についての意見で、蔵書の新鮮度を図れる指数(マ)があったと思うので活用してはどうか。野洲では書庫シールは貼っていたか。

館長：貼っていない。このため、保管場所のデータを変えれば、簡単に開架に出すことが可能。

委員：他館では書庫出納して貸し出しがあったものは開架に戻すことで、いろんな本があるように見せているところがある。複数館あるところでは、回送で元の館に戻るまで開架に出しているところもある。限られた蔵書でも工夫していろいろな本があるように見せることも可能。本が回転していることが目に見えてわかるような工夫はできると思う。県立でも書架から古かったり利用が少なくなったりした資料を間引きして書庫に入れるという作業を毎週休館日に行い、書架が新鮮に見えるよう務めている。

館長：本館は仕方ない部分もあるが、中主分館の棚の新鮮度については課題だった。先の他館の事例のような手法をとると、特定少数の利用者のリクエスト本によって棚の本が占められ、結果的に偏った棚構成になってしまう可能性もあり、その点注意を要するが、一度検討することとしたい。

(2) 令和6年度図書館利用状況について

館長：2月末までの報告。以前は貸し出し冊数の推移をお渡ししていたが、今回は裏面に貸し出し人数も出している。貸し出し人数の表の前年比のところを見ると月ごとに+1.0くらい。11月の休館日は落ち込み、12月は利用もあったが寒いので利用は伸びなかったという印象。今回1人の人が1回で借りる冊数がどうなるのかも検討したところ、この6~7年でじわじわ減っている。読みたい・借りたい本がない、冊数が少なくなって貸し出し中のことが多く借りられない、という状況が原因か。このことについては後程あらためて説明する。駅ボックスは前回示したところから大きく変わっていない。回転がやや遅くなったという印象はある。ただ、駅ボックスは常に全ボックスが埋まっている状態で動いており、約100人待ちという状況は変わっていない。すぐに駅ボックスが増えることはないと思われるが、受取期間を短くして待ち人数を減らせないか内部で検討しており、利用実態のデータを採集して1~2か月後に判断できればと考えている。次に貸し出し冊数の資料に移る。およそ46万冊、前年度の92パーセント程度になると予想される。空調工事の影響もあり仕方ない部分もあるが、来年度以降はせめて50万冊程度にすることが目標となる。

会長：貸出人数はのべ人数か。

館長：のべ人数。ちなみに、全国の貸し出し冊数の表と比較すると、おおむね全国5位くらいはキープできるかという印象。あまり参考にはならないが…。

委員：ほかの図書館のデータがどれくらいあるかはわからないが、特に上位争いをしているほかの

図書館でも苦戦している、上昇しているなどデータ分析できればよいと思う。

館長：まだデータが出揃っていない状況ではあるが、県内の図書館データなどが出揃ったら検討できればよい。

委員：全国的にみても、2010 年をピークに貸し出し冊数が減少している。県立も減少しているが、野洲では一般書と児童書の減り具合はどうか。県立ではピーク時に比べて児童書は殆ど貸し出し冊数が減少していない。ベストセラーが読み継がれているなどの背景だと考えられる。

委員：県立は公園の一角にある立地もあり、家族連れなどの利用は減っていない印象。子供は親に連れてきてもらって、本を選ぶ。青年層をどう取りこむかは課題。

委員：一般書の減少は、特にネットで得られるような新しい情報を求めている層も増え、ライフスタイルの違いとして仕方がない部分もある。図書館は紙でなければカバーできない部分を担う必要がある。とくにネットではフェイクの混在、責任の所在がわからないこともある。

委員：県立の例もあると、野洲もいっそ希望ヶ丘につくればよかったと思えてくる。

委員：県立でも「公共交通機関では来られない」という立地に関する意見は出る。建物を建てる場合、立地に関して意見が出るのはしかたない部分がある。

館長：建設当時はこのあたり一帯がもう少し開発される予定であったと聞いている。図書館のセオリーとしては人が集まる場所に建てるものなので、立地としては不利。先ほど指摘のあった児童書と一般書の違いだが、野洲でも児童書の減り具合は少ない。絵本などは電子では代えがたい点もあり、堅い部分かと。

委員：地理的に便利な市街地の図書館では駐車場の問題が出てくる場合もある。90 年代に建てられた図書館は「少し遠い場所に車で行く」という立地で作られている図書館が多く駐車場も広い。

委員：当時は保健センターに人が集まるという意見があった。今は若い人が集まらないセンターになっている。

委員：季節ごとに分析すると、秋は読書活動が推進される時期でもあるので、各所の取り組みが反映されているとよいと思う。不便なところに作られている立地の問題もあり、資料保存の点から考えると限られたスペースでは難しく、にぎやかな場所に建てるのは難しい。免許センターが駅から遠いという記事を読んだことがあるが、事情は似ている。資料をこれから増やすことを考えると、不便な土地でもスペースが確保できるようにしたほうがよいように思う。

委員：図書の新規購入数は減っているのか。

館長：後ほど説明しようと考えていたが、図書購入冊数を見ると傾向としては減少している。R2、R3 はコロナ交付金で少し増えているが、通常購入している本の冊数は減少している。

会長：ここまで減っているのか。

館長：のちほど詳しく説明する。

(3)「令和 7 年度図書館の事業方針(案)」について

館長：おおむね前年度の内容をなぞりながら行うことになるかと思われる。赤字で書いた重点目標の部分で、学校司書についての記述がある。ここまでののに長い時間がかかった。担当課ではないので事務手続き上どのように進んでいるのか詳しくはわからないが、予算はついたので来年度は学校司書が現場に入る予定である。学務課兼務の学校図書館支援員をやめてしまうと、これまで育ててきた芽を積んでしまうことになるので、支援員は継続の方向で要望している。学校司書の働き方としては 2 校に入ってもらうことを想定。一人では 9 校は賄えないが、

学校司書が入ることでの変化を見せ、増員につなげたい。公共図書館として直接何かするわけではないが、出来る限りの支援をしたい。「より魅力的な資料構築」を赤字で書かせていただいた、予算が減っている中ではあるが、職員でできる限りのことはしたいと思っている。年間事業予定表に移る。宿題になっていた基本方針の構築と、図書館の新システムの構築とある。新システムについては現在事務を進めている。システムの調達については野洲市単体ではなく、おうみクラウド協議会で周辺自治体と連携して進めていく。R8年度には更新のため休館が必要になる見通し。システムの会社が変わるとHPなども変更になる可能性がある。事業方針についてはまた来年度の図書館協議会で検討したい。

会長：質問・ご意見があれば。

委員：学校司書はどのように試験されるのか。図書館の職員になるのか。

館長：学校司書は作文と面接で試験を行った。学務課管轄の職員になる。

委員：学校と図書館はどう関わるのか。

館長：学校司書・学校図書館は学校長の指揮系統の下にあり、公共図書館は指示を出すなどはない。例えば、資料が足りないなどの場合に協力することはできるか、などと現在支援方法を検討中。自治体によっては学校司書が図書館の指揮系統に属していることもある。

委員：学校図書館支援員は図書館所属で、学校司書は学務課という別所属で連携できるのか。

館長：支援員は学務課兼務になる。市内の学校図書館整備について、ある程度自由に動いてもらうような形になる。

委員：「より魅力的な～」のところで、棚の上に表紙見せしている本でよい出会いがある。そこにもうひと工夫あるとよい。頻繁に図書館を使わないと、棚の上に表紙見せされている本がおすすめだとわからない。棚担当のおすすめ、ということが分かるとよい。以前は蒲生の図書館でポップをたくさん置いていた。今ある本で勝負するなら、そういったもうひと工夫あれば本との出会いが広がるのではないかと。可能か。

館長：実際の事務量の中でそこまで手が回らないのが現状ではある。

委員：棚の上に向けて「おすすめ」とつけるなど、置いてある意味がわかるようにしてほしい。

館長：特集をする際も、特集をする意味が分かるようにというのは職員に伝えている。現在は棚担当に任せているところではあるが。事務のスクラップ&ビルドも必要か。

委員：利用者の新規開拓も必要だが、リピーターの確保にも取り組んだほうがよい。個人的には新しい他館より、野洲のほうが落ち着く。

館長：おすすめの本が棚の上に上がっているときのほうが多いが、棚に乗り切らない場合や、利用者が勝手に上げているということもある。楽しい棚を作るのが一番かと思うので、何か動きを見せられたらと思う。

会長：棚の上はわたしも魅力的に感じられる。書架の魅力は本に呼ばれることだと思う。棚の上は表紙見せの分、パワーが強い。また、追悼特集で、自分の好きな作家さんがやってもらえなかったときは少しショック。ファンの人に向けて小さくてもよいからやってほしい。

館長：おそらく忙しいからなどという理由で、出来なかったのかと思う。最近は亡くなられる方も多いが…。

会長：書庫から出してくるチャンスにもなる。

委員：アンケートにあった「賞を取った本がない」というのは事実か。

館長：メジャーな受賞作はほぼ入れているはず。

委員：冊数はどれくらい購入している？

館長:予算の問題で、今は予約が8件から9件以上の場合複本の購入を検討している。

委員:受賞作は棚にないという意味だと思う。図書館ではしかたないことかと思う。

委員:県立では「成瀬」は一冊禁帯出にして館内閲覧用にしている。滋賀ゆかりの作品だったこともあるが。

館長:野洲でも宮島さんを講演で呼び出したときはその前後の期間は禁帯出にした。しかし、館内で常時読まれているという状況にはならなかった。

委員:蔵書点検は4月に行うのか。せっかく人が戻ってくる時期ではあるが。

館長:その後の点検がいつになるかわからないという兼ね合いで4月になった。書庫は含めないなど作業を簡略化しつつ、平日の4日で行う。

委員:そもそも蔵書点検の目的は?

館長:書架の正しい位置に正しく本が並んでいる状態にする。結果的に不明本が見つかる、という感じである。

委員:印刷費用削減などの兼ね合いもあるが、行政資料などでデジタルになっているものはどれくらい印刷しているのか。

司書:ケースバイケース。こちらで印刷することもある。

委員:HPにしかないようなデジタル資料も積極的に保存してほしい。

館長:デジタルアーカイブなどの形もある。

委員:県立ではデジタルアーカイブでの保存も行っている。消えてしまうかもしれないデジタル資料の保存にも取り組んでほしい。

委員:今年度は知的障害のある児童の図書館資料に取り組んでこられた。しかし学校全体として図書館を利用する気風にはならない。司書から養護学校向けの利用案内を作成したいという話があり嬉しかった。これまでの利用などをまとめ、発信したい。

委員:多文化サービスについて、環境を整備するというのは具体的に何をするのか。

館長:まずは資料を購入、そして図書館が使えるということをPRする。外国の方が、自分の母語の本が日本語の本に比べて少ないと感じると利用の継続にはならない。他館の取り寄せなどのPRをして、図書館を信頼してもらえるように、国際協会さんなどと連携したい。必要な資料についてはどんな言語でも用意するという姿勢を見せたい。一番重要視したいのは資料の購入だが、外国語資料は高額ということもあり、予算をどれだけ割けるかは要検討。

委員:日本に來ている外国人が「何語で情報(簡単なサインなど)を得たいか」という調査で、「日本語」という回答が多かったのを何かのアンケートで見た。利用案内や館内のサインなどについてはやさしい日本語での案内を考えてもらえればと思う。

館長:それはバリアフリーサービスの応用も効く。

委員:やさしい日本語では「高所へ避難してください」を、「高いところへにげてください」と書くとか。「に」という助詞はいろいろな場面に使うので方向を表す「へ」を用いたほうが良い、ということがある。

委員:日本語をどう学んでいるかというところともつながる。

(4) 令和7年度予算要求状況について

館長:昨年度の第4回図書館協議会の結果、資料費の減額に対する市長への「意見書」を提出したという流れがあり、今年度は年度当初から教育委員会内あるいは財政課などと、そのことについての情報共有をすることでスタートした。そして、令和7年度予算の予算要求時にまと

めた説明資料とグラフがこちら。この資料は教育委員会と財政当局、市長の折衝の場でも説明資料として提出した。結果としては、こちら予算説明資料のとおりで、図書費は 22 万 6 千円増加した形になる。あまり芳しくない。図書館全体としては、空調工事が終了した分の総額の減少がある以外は、管理運営費などが大きく減らされることはなかった。一方で資料費については、必要額の要求を認めてもらうには至らなかった。財政当局からは、図書館のこれまでの予算削減への努力に対して理解もありつつ、教育委員会の枠の中で図書館にお渡しできるのはこの金額という説明。図書の価格も上昇しており、仮に同じ予算だとしても買える冊数は減少している。消費指数を調べたところ、2015 年を起点とすると、この 10 年ほどの間で 10 ポイントほど以上増加している。本屋で海外文学文庫が 1000 円を超えているような状況。その中で、ここからは学校図書館への支援業務も予定しているが、調べ学習の資料は高額であることを考えると、一般資料の購入予算も厳しく、選書はより注意して進めなければならない。今後も、図書館としては本を 1 万冊購入できる分は要求（2 千万円越えになるが）したいと考えている。ブックスタートについても減額されているが、この部分については、子供の数が減っていることを受け、図書館側から前年より少ない金額で要求した。

委員：ネットで、隈研吾氏の建てた建物が不評という記事を見た。木材が腐り建て替えが必要になるなど。それに比べて野洲は頑丈で、雨漏りするくらいで済んでいる。野洲も建設当時はソーラーパネル、雨水の利用装置などがあったが、まだ使っているのか？

館長：太陽光発電システムは壊れているが、建物本体の温度が上がるのを防ぐため日よけとしてそのまま置いている。雨水の利用については、先日壊れたポンプを直す予定。ポンプを直すのに費用はかかるが、10 年使えば元が取れる範囲であること、他施設でトイレの破損があった場合の避難場所として使えるなどとして予算確保した。

会長：資料費は以前協議会から要求したのに、増えなかったということか。

館長：残念だが必要額にはならなかった。去年の意見書は前市長あてであったが、新市長にもこちらの声は届いている状況。

会長：こんなことでは困る。結果、協議会の意見が通らなかった。今年度は新しい本が全然なかった。こんな状況を、来年以降も続けよということか。たった 20 万円。こんな額で増えたとか言ってもらっては困る。野洲市は教育にお金をかけなさすぎるのではないか。全国的に見ても、とてもよく本を読む市民がいる町。そんな町にある野洲の図書館こそ、町の誇りではないのか。このような町の良いところを伸ばそうとしない予算のつけ方には怒りしかない。協議会として再び意見書を出す必要があるのか。また、直接市長と話をする機会を持ったほうがいいのか。我々市民の意見がないがしろにされている。

館長：教育に対する予算が十分でないのは、確かにその通りだと思う。しかし、まちの財政状況を考えると、いろいろ難しい。今回予算編成時に教育委員会の他課の状況も見ながら事務を進めたが、どこも必要なものを泣く泣く切っている状況。学校司書がついた、ALT がついたという中、ではどの部分をどれだけ削れるかという状況だ。教育委員会の枠の中で予算編成をする中、今年はこれが最大限ということ。ただし、これでよいということでは決してなく、教育委員会も含め、必要な予算はしっかり確保できるよう、予算獲得の努力は継続していきたい。

会長：こんなことでは、到底納得できない。

委員：協議会という場に教育長など教育委員会の出席を求めたい。守山では教育長が毎回参加している。

館長：外部評価の検討の回など、一部適さない場合もあるかとは思いますが、スケジューリングについて

は検討したい。

委員：野洲市は観光の目玉になるような、大きな観光資源などがあるわけではない。それでも「読書量が多く、本に親しみが深い町」ということは市の特色として押し出していけると思っていたが、この予算の状況ではそれも薄くなってしまいそう。

館長：新市長に変わり、子ども向け高齢者向けの施策を柱としているところもある。

委員：守山などを見習って、教育委員会の出席を求めるべき。ほかに予算がかかる部分もあったのは理解しているが、野洲市として読書に興味がないと感じられる予算の配分だった。

(5) その他

・「第4次野洲市子どもの読書活動推進計画」策定状況について

館長：パブリックコメントの後、教育委員会定例会などを経て、もうすぐ一般にも公開できるというタイミング。今は正式版をお渡しできないが、パブリックコメントでいただいた意見を反映した内容になっているかと思う。今回の第4次計画では、学校司書が配置になったということもあり、学校図書館のステップアップなどを中心に、市内の子どもの読書環境が整備できるよう、進めていきたい。

・空調工事について

館長：本日この後引き渡し予定。一部追加工事も発生したが、おおむねつつがなく終了した。

・新聞記事紹介

館長：栗東市で、以前協議会議員の五十嵐さんが本を出版された「聴導犬ポッキー」について、講演会が開催された。野洲でも講演会を依頼できればと考えている。栗東市の新しい移動図書館については、ライオンズクラブからの寄付で成立したが、野洲としても何かできることがないか検討中。

・最後に

館長：本日が今期最後に協議会になる。貴重なご意見を多数いただき、感謝する。次期協議会の公募委員については現在選定中だが、協議会としては、ある程度の継続性をもちつつ、新しい委員の意見も取り入れながら行っていければと考えている。皆様には、今後のご意見をいただければと思う。